

新聞雜誌

明治壬申四月

第卅八號

定價三匁

特	別
18	
787	
38	



緒言

凡天下ノ物事ロニ新ノルニ我未タ見聞セザルヲ知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑懼ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシスヲ非トスル過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシ斯テハ逢カクキ世ニ生レシカヒ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變革又ハ
 里巷ノ瑣事外國ノ異聞ヲ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ
 人々ト新知ヲ開クノ樂ノ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ニトテナリ願ハ此冊子
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚
 ベク喜ベキ事多ク准一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レシ事多ク一
 リト知玉ヘサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人々ニ廣ク知ラセテ



新聞雜誌第廿八號 明治五年壬申

○皇太皇后三月廿二日西京御發興四月十二日東京御
 着赤坂元和歌山邸御座所ニ相成ル由ナリ
 ○今般赤坂ニ離宮ヲ置ル、旨御布令アリタリ
 ○神社佛閣ノ地ニテ女人結界ノ場所所有之候處自今被
 廢止登山參詣等可為勝手旨御布告アリタリ
 ○西本願寺ヨリ宗門教導ノ為諸國巡回ノ議ヲ奏問セ
 シニ左ノ通大藏省ヨリ御達ニ相成タリト云
 西本願寺法主門末教導ノ為巡回ノ儀被差許候ニ付テ

新聞雜誌

ハ自然教諭ニ托シ勸財等ノ儀モ相聞候ハ、事情調査
ノ上速ニ可申出云々

○文部省ヨリ府下私塾教師ニ達書

従前私塾ニ於テ生徒教育ノ儀ハ官ヨリ差構不致候處
元來人民教育ノ道ニ於テハ公私ニ因リ其差別無之等
ニ付私塾教師ト雖氏官ノ許可ヲ不得^レ切ニ教育ハ不相
成譯ニ候条自今私塾ヲ開キ候者ハ前以其姓名年齢従
前ノ履歷學課塾則教育ノ方法開校ノ場處等委細ニ開
列シ當省ニ伺出免許ヲ受候上開塾可致就テハ東京府
下ニ於テ是迄私塾設置候者右塾則等早々取調三月十

七日ヨリ止日迄ノ際府廳添鑑ヲ以テ當省ニ可伺出其
他ノ府廳ニ於テハ其官廳ヨリ適宜ノ期限ヲ立塾則ノ
類為差出検査ノ上開否ノ見込ヲモ相添當省可伺出候
○私學教師ノ許可ヲ受候モノハ何方ニ於テ開塾候氏
不苦^レ尤^モ其身不行状有^レ之カ或ハ文部省ノ約束ヲ相背候
者ハ教師ノ名ヲ差止開塾可申付候○公學私學ノ別ナ
ク公費ヲ以テ生徒給與ノ儀ハ切ニ不相成事ニ有^レ之然
ルニ生徒ノ内性質善良學術上達往々學課上達ノ目的
有^レ之候得共何方其身家貧窮ニシテ學費無^レ之者ハ其教
師ヨリ情實委細取調當省ニ可相出試験ノ上詮議ニヨ

リ官費被_レ下方ノ道モ可有_レ之此度公費生徒一切廢止候
處自今右ニ適_テシ候者有_レ之候ハ、早々取調東京府下ハ
来ル廿日迄ニ可_レ申出候云々

○静岡縣士族某ノ女年十六容姿美麗ニシテ夙ニ洋學
ニ志アリ良師ヲ求メンカ為メ去冬東京ニ来リ下谷遊
洋學先生某ノ塾ニ入り日夜獨逸學ヲ勉強セシカ學業
ノ進步實ニ男子モ及ハサル計リナリ然ルニ先生不圖
ソノ容色ニ迷ヒ之ヲ挑ム_ト再三ニ及ヒシ内氏女固ヨ
リ志操正シクシテ之ニ應ヤス先生益眷戀シ一夕愛情
ノ餘強テ女ニ迫ラントス女程ヨク之ヲ避ケ逃_レ出テ

某家ニ至リ其旨趣ヲ訴ヘ遂ニ退塾セリト云方今処々
ニ女學校ノ設アリテ入校ノ學生モ日ニ盛ニナレ凡斯
ル人道ヲ知ラサル先生モ間コレアル由父兄タルモノ
缺々注意シテ良師ヲ選_トフベシト或人語レリ

○三月十五日府下下谷豊住町桑茶植附場ノ内三澤八
右衛門上地稻荷杜ノ跡ヨリ文字小判四十四枚壹分判
七枚ヲ掘出シタリ翌日其旨趣府廳ヘ訴出タル由

○横濱刊行カゼット新聞ニ云
倫敦_{トシ}第四月八日_{朔日}三月_{朔日}アンチオチニ於テ大地震アリ
市街大半潰_ツレ死者一千五百人アリト云々

○桑港ニテハ日本人當時太平洋ニ於テ一會社ヲ開キ
 米國飛脚船會社ニ抗シテ蒸氣郵船ヲ設ケ便宜ノ法方
 ヲ立ツベシトノ風説アリ桑港ノ商人等之ヲ信用シタ
 リトイカナル謬傳ニヤ我輩之ヲ聞テ絶倒スト云々

○佛國ハ白耳義ト貿易條約ヲ結ハントテ公告シ會議
 來ル二十一日迄日延シタリチールス氏ノ演説ニ内外
 平穩トラントヲ希フト云ヘリ佛國ハ實ニ平和ヲ好ミ
 テ内國ノ基礎ヲ固メントス

○倫敦第三月三十日 我二月二十日 米國ニ於テ茶及ヒ珈琲
 ノ稅ヲ廢セリ

○歐米各國エノ副使大久保大藏卿伊藤工部大輔其他
 官負御用ニ付三月廿四日米國華盛頓府ヨリ歸朝相成
 タリ此由預メ彼國ヨリ傳信機ヲ以テ英國龍動府ニ達
 シ夫ヨリ我長崎迄海陸五千五百里餘ノ路程ヲ日本四
 時ニ達シ又長崎ヨリ東京迄飛脚船ニテ三昼夜ニ達セ
 リ電報ノ神速自由ナル實ニ驚クヘキニ堪タリ

○方今諸官省ニ於テ御雇入外國人總負二百十四人ニ
 及ヘリ内 英百十九人 佛五十人 米十六人 寺ハ
 人 蘭二人 伊一人 葡一人 白一人 噠一人 馬
 四人 支九人 印二人ナリ其給金一ケ年ノ總高五十

三万四千四百九十三元十リト云

○諸國貢米金納場所皆濟期月定

山城 近江 丹波内林上郡 是八金方二月東京納 攝津 河内

和泉 播磨 紀伊 是八金方三月東京納 美作 備前

備中 備後 安藝 周防 長門 淡路 阿波 讃岐

伊豫 土佐 是八金方四月大坂納 丹後 但馬 因幡

伯耆 出雲 隱岐 石見 佐渡 筑前 筑後 肥前

肥後 豊前 豊後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對

馬 是八金方三月東京納 伊賀 伊勢 志摩 尾張 甲斐

美濃 是八金方四月大坂納 東京納 三河 遠江 駿河 是八

金方二月 東京納 若狹 越前 加賀 能登 越中 越

後 羽前 羽後 是八金方三月東京納 磐城 岩代

陸前 陸中 陸奥 是八金方三月東京納 伊豆 相模

武藏 安房 上総 下総 常陸 上野 下野 是八

金方正月 東京納 大和 飛彈 信濃 是八皆金納二付

二月東京納

右之通改定セラレ、ノ旨先般仰出サレタリ

○今般東京府内戸數人負改正ノ表左ノ如シ

第一大区 戸數 四万七千九百六十戸 人負 二十

一万五千七百七十人 第二大区 戸數 三万零百七

八戸 人負十一万八千七百零三人 第三大区 戸數
 二万八千三百七十四戸 人負 十二万五千六百九
 十九人 第四大区 戸數 二万零七百七十四戸 人
 負 六万七千八百零七人 第五大区 戸數 二万八
 千八百三十二戸 人負 十三万四千四百六十三人
 第六大区 戸數 二万七千七百五十七戸 人負 九
 万九千百九十零人 合 戸數十八万三千八百四十
 五戸 人負 七十六万四千六百三十二人 外 寄留人
 十二万餘 惣合 八十八万四千六百三十二人餘

○今般廣嶋縣管下巖嶋ニ於テ舊来ノ寶庫文庫ヲ始メ

社家寺院ノ内傳來ノ甲冑刀劍書画器具等ヲ陳列シ展
 覧ニ効テ大會ヲ開キ傍ヲ交易ノ事ヲモ企ツル由

○京都ヨリ大坂迄ノ鍊道已ニ測量ニ取掛タリ今ヨリ
 ニケ年ニシテ成就スヘシト云

○三月二日蒸氣東京丸箱館ノ北「エサン」岬ノ邊ニテ風
 波ノ為ニ沈没シ積荷ハ盡ク損セシカ乗組六百ノ
 處一名モ溺死ナカリシ由箱館ヨリ報知アリタリ

○元館山縣卒小川新次郎東京府權少屬在職中存下本
 所相生町町人清五郎ノ妻登典ト奸通シ且其夫清五郎
 ヲ切害セシ事件三月中旬官裁アリテ新次郎ハ三十歳

ニテ斬罪ニ處セラレ登與ハ四十二才ニテ絞罪ニ處セラレタリトソ

○三月十六日淺草令戸出火類焼ノ者共へ憫然ナリトテ華族従五位大河内輝聲舊高崎藩知事外ニ同町稻垣彦兵衛願濟ニテ左之通救米ヲ出セル由

一白米四拾九俵 但シ四斗八 従五位大河内輝聲

戸數四十九戸へ一俵ツ、

一白米四石一斗 稻垣彦兵衛

戸數四十一戸へ一斗ツ、

○或人ノ論ニ令般府下火災後街衢御改正ニ付テハ自

令各家屋ノ徳厨ヲ速ケテ造作相成ル様致シタシ一家

數十人同居ノ大戸ハ別ニ厨ヲ造リ又長屋住ノ小家ハ數十戸毎ニ一杜ノ飲食店ヲ造リ食事毎ニ往返シテ

事ヲ辨シ一戸毎ノ竈ヲ廢止セハ第一節儉ノ一端ニシテ且日本人從來ノ貧飽ヲ禁スルニ足リ従ツテ火災

モ少ナカルベシト云々

○大坂ヨリノ來信ニ彼府下ニテ此節天火見ハレ迄キ間ニ災ノアル兆ナリト惡説ヲ流傳スル由是恐クハ

奸人ノ其虚ニ乘シテ事ヲ謀ルモノナランカ又ハ奸商狡ノ其隙ヲ伺ヒ利ヲ得ント巧ムモノナランカ諺ニ

モ商人根性ト云ルヲアリテ世間ノ相場師ト唱フル者
多クハ無根ノ浮言ヲ言觸ラシ人氣ノ煽動ニ隨ヒ物品
ノ價直ヲ増減シ大利ヲ射ルヲアリ況ヤ都會ノ地ハス
ヘテ人氣悪ク婦女子ニ至ル迄造言浮説ヲ好ムモノナ
レハ是等ノ事官ヨリ告諭アリタキモノナリト云々
○自今兵書出板免許ノ儀ハ海陸軍兩省ノ所轄ニ相成
リ陸軍書ハ陸軍省海軍書ハ海軍省ヘ可伺出又教義ニ
關スル著書出板免許ノ儀ハ教部省ノ所轄ニ相成リ其
省ヘ可伺出旨御布令アリタリ

新聞雜誌第廿八號終

報告

○近頃江尻義友ナル者燈油ヲ發明セリ燈光殆ト種油
ニ異ナラス其減方至ツテ少燈心一本ニテ徹宵滅セ
スシカモ其價最モ廉ナリ然ルニ猶油烟甚シカリシ
ヲ此頃武藤治三郎一層ノ工風ヲ凝シ精製セシカ極
品ノ種油モ及ハサル程ニ成タリ若シ其製法ヲ傳習
セルトスル者ハ東京下谷立花西門前江尻氏ノ寓居
ヲ訪ヒ細ニ聽玉ヘト云

○小倉縣近藤彦兵衛ノ工風ニテ石灰ヲ燒クヲ發明
セリ今其報條ヲ左ニ掲ケ世間ノ考驗ニ具ス夫石灰ノ

用タルヤ世人ノ普ク知ル所ナリ然レ氏之ヲ焼ノ方
 法ニ至リテハ抑言サル可ラス是迄石灰ヲ焼ニ^{コトズミ}控炭
 ヲ用ヒ来リシカ其費ヘ頗ル多クシテ其功ハ却テ少
 ナシ余多年工風ヲ凝シ遂ニ一種ノ妙方ヲ案出シ余
 カ縣所産ノ^{ウツキ}燔石ヲ以テ焼ニ之ヲ控炭ニ比スレハ其
 費ストコロ僅カ十ノ三四ニメ烟氣最少ナシ頃日浪
 花ヨリ神戸迄ノ鍊道ニ供スル漆食ノ石灰ハ皆燔石
 ヲ以テ焼立ル由外國人モ之ヲ稱賛セリ余因テ之ヲ
 海内ニ流布セシテ冀望ス同好有志ノ輩ハ府下芝車
 町福岡與兵衛方へ御來訪ヲ冀フ謹白

撰者伏テ四方ノ君子ニ告テ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
 其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バザル處多シ願クハ同好ノ人
 何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
 ハ次第ニ刊行宛免スベシ但寄玉フ書付ニハ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
 可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

- 一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件
- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
 - 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
 - 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
 - 一 金銀其外ノ貸借等
 - 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
 - 一 夫物尋物等
 - 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
 - 一 見世モノ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行正三宇一度出札價三匁宛同事件ニ度分ハ五匁五分
 三度分ハ八匁ニテ御引受けイタシ候

新聞雜誌定價一冊銀二匁 每週出版

當時發兌踊ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引
同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ毎冊發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致
候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局へ御引合ノ上御相談可申候

本局

東京西國若松町
H 新 堂

東京西國横山町三丁目

和泉屋金右工門

東京芝三高町

和泉屋市兵衛

大坂心齋橋通

河内屋吉兵衛

東京日本橋通一丁目
須原屋茂兵衛

大坂心齋橋通

河内屋喜兵衛

大坂心齋橋通安土町

河内屋清七

東京日本橋通

和泉屋杜造

東京東洲院三茶上几町

村上勘兵衛

賣弘所